

個々の歴史、そだちの物語に ふれるための前提

～若者たちが教えてくれた
「見えない当たり前」について

日置 真世

自己紹介

支援されることの居心地の悪さと仲間の心地よさ
その違いは、自分の歴史や物語を受け入れられた、通じた感覚の違いなのかも？

すべては自分の問題からスタート 3つの顔

①生活当事者

三人のバラエティ豊かな娘(レット症候群重心の長女、切れ味鋭く気難しく過敏な次女、唯一定型発達三女)をもつ母子世帯 娘たちが私の師匠

②NPO、市民活動～支援活動の実践者

地域生活支援ネットワークサロン、よりそいホットライン、過去に札幌市スクールソーシャルワーカーほか、いろいろな支援・地域づくり活動に携わる 多様な人たちが活躍できる機会づくり

そこで出会った子どもや若者たちが次々と師匠になりました

③理論と仕組みをつくる研究者

地域、現場が知っている大事なことを制度や社会システムに生かす、つなげる、誰もが自分らしく活躍できる社会にするための理論を整理、発信する(弟子入りの恩返し?)



地域生活支援ネットワークサロン

1993年に発足した障がい児の親の活動を前身として、たまり場づくりや情報発信を目的に2000年4月になんとなく作った団体だったけれど。。

同年12月NPO法人化し、2001年の小規模作業所運営を皮切りに、地域のニーズに即応しながら、障がいの種別、年齢、有無にかかわらず地域生活支援事業を年々、増殖。

「地域に埋もれているニーズを拾って、形にする」ことが社会的役割の法人(地域生活の総合マネジメント)
詳細はHPを見てください

Frame Free Project

たくさんの若者たちに弟子入りしていきました。
たくさんの師匠が私にいろいろなことを教えて
くれています。



生きづらさを経験した若者たちが「自分を知り、
他者を知り、社会を知る」「社会とつながる」活動
価値観を広げていく、感じ、考え、表現できる人
になり、地域や社会つくる

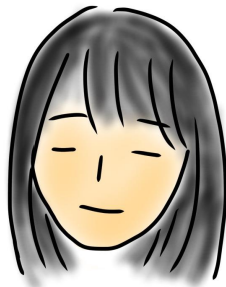
若者支援のニーズが顕在化し、釧路 の社会資源が発展していった過程 ニーズ

2004～2007年頃
釧路の関係機関
からの紹介

2008年～
札幌の定時制高校
からの紹介

子どもや若者たちを取り巻く
環境は想像以上に深刻

支援機関や関係者も限界、
家族も追い詰められている
でも、使える支援がない現
実とあえず、地域何とかで
きることはやろう



事業所の空室、グループホーム
冬月荘・夏月荘、自立援助ホーム
スクラム、まじくる、研修生制度
ななみ農園、就労や社会体験
フィードバック研修会～FFP

出会った若者たちが次々と釧路にや
ってきて、NPOの現場が発展していく

連動する活動の3本柱からスタート

研究活動

講師派遣

日常活動

受信・発信が一度にできる

講師派遣

学びの場

支援される側を経験してきた私たちを研修の講師として呼んでもらい、当事者の立場や特徴を生かし、自分たちの思いや感じたことを伝えることで、支援される側についての理解を深めてもらう発信の活動です。普段の支援現場では伝えあえないような本音もたくさん語られます。

また、「支援」についてメンバーと参加者が一緒に考えることで、「支援する側」「支援される側」という普段の立場を超えて、自分や他者の気持ちの感じかた、立場に気づき合ったり、学び合ったり、それらを通じて新たなつながりを持てる機会になっています。

毎回、私たちが多くの学びや手ごたえを感じる機会になっています。

まさに、「歴史を聞き取り、そだちの物語」を分かち合う企画でした。
講師派遣の実践は双方にとって貴重な機会になりました

研究活動

私たちの生きづらさを 考える場

☆フィードバック研究会

議論を通じて価値観の多様性や物事の多様性について実感し、自分の中にある「こうあるべき」「こうじゃなくてはならない」などといった価値観に気づくこともできるなど、自己理解、他者理解を深める機会になっています。

自分の歴史やそだちを振り返る機会
自分の苦しさや生きづらさの背景を知る機会
今考えると「見えない当たり前」を感じる機会でした

日常活動

家庭生活や 学生時代のやり直しの場！？

研究会や講師派遣などの活動をしていると自然にみんなでご飯を作って食べたり、語り合ったり、一緒に出掛けたり、遊んだり、誕生日を祝ったりといった日常の場面を共有することが増えてきました。

最初はおまけのような存在だったこうした時間が実は私たちにとってとても大切だということが分かってきました。

日常をともにすることでそれぞれの歴史やそだちの理解が深まります。違いと同時に普遍性にも気付きます。

<日常生活の大切さ>

生活スキルや対人関係、コミュニケーションなどに自信がないメンバーが失敗もわらって受け入れてもらえるコミュニティで日常を共有することは、少しずつですが安心感や自信、信頼の蓄積につながっています。

これまで家庭や学校ではなかなか経験できなかったことをいろいろな活動の中でやり直していると感じることも多くあり、一人ひとりの成長の秘訣になっています。

⇒土台にあるのはフラットな対話！？

日常活動が「日常」になった

10年前からの実践と若者たちの力を合体した新たな取り組み

「コミュニティホーム大川」

- 自立援助ホーム(児童福祉法 15~19歳 6名定員)
- グループホーム(総合支援法 障がいのある方)
- 若者たちのシェアハウス(制度外 ちょっと変わった下宿?)
- 宿泊体験、支援関係者の研修所
- 地域の居場所、活動場所の組み合わせ



教育大の近くの元下宿建物

1階にバリアフリーのトイレ、お風呂
付の2LDK、食堂、ちょっとしたカ
フェもできるスペース、2, 3階が9部
屋の個室に共同のトイレ、お風呂、
洗面所がある。

コミュニティーホーム大川

＜3階建ての母屋＞

1階はデイサービスと食堂、店舗用スペース、
2階、3階はそれぞれ8室居室、風呂、トイレ

＜コーポ大川＞

2階建て8居室の
ワンルームタイプの
グループホーム



仕事とケアの学びあい

コミュニティーホーム大川を始めるとここで思わぬ仕事？
のようなものが生まれました。

毎日のご飯づくりや、入居すること
になった車いすの男性のトイレや
入浴介助といったケアの仕事です。

最初は戸惑うことばかりで大変な面も
多くありました。慣れない中での仕事、
利用者本人はもちろん、家族の方との
コミュニケーションなどなど

どっちが支えて、どっちが支えられている？

自立援助ホームの若者たちとの 出会い

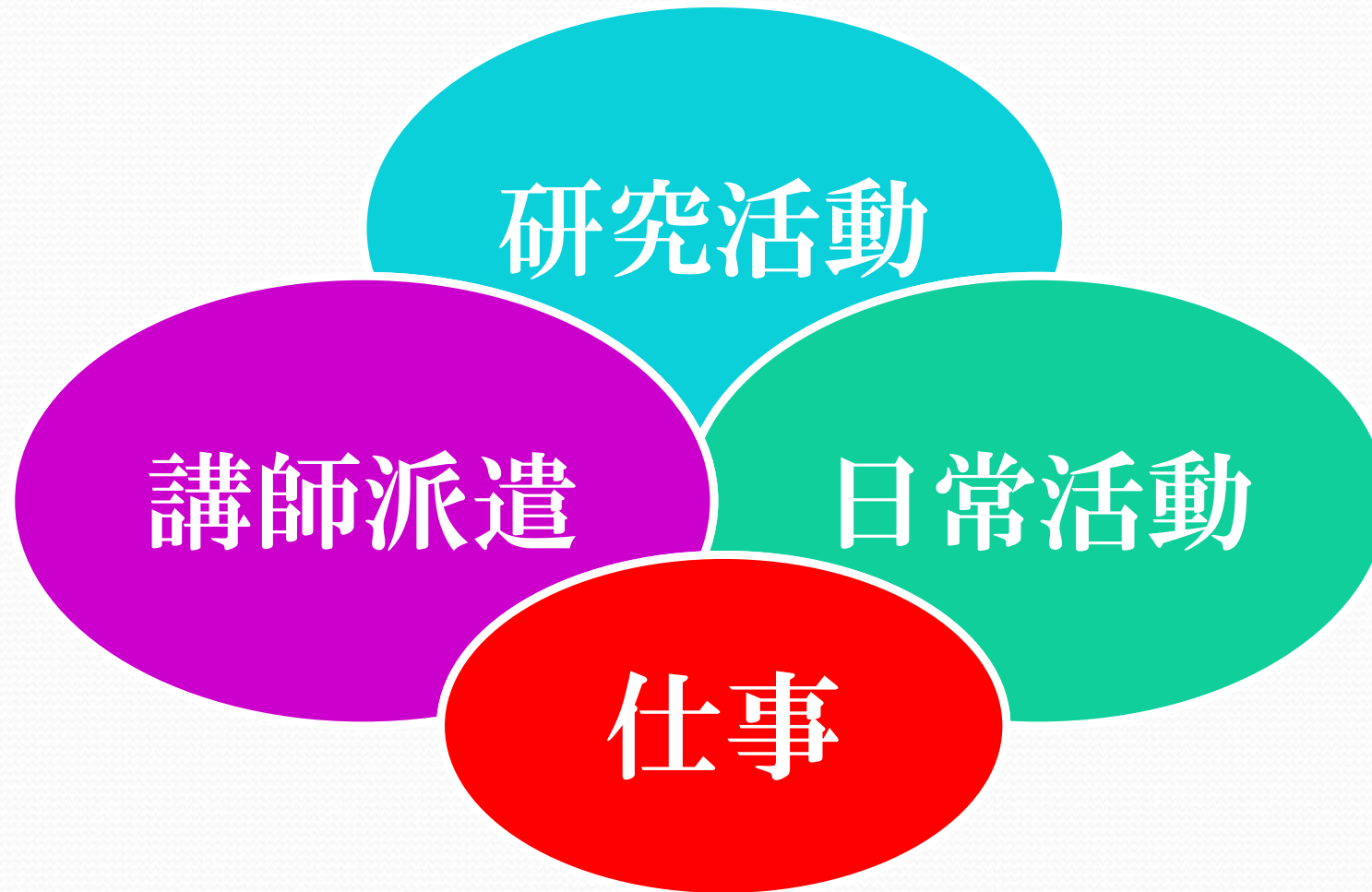
新たな課題を抱えた若者たちと出会うことで、今の自分の課題や、過去の自分が感じていたことをリアルに思い出すきっかけになっています。

本人たちの課題と向き合っているようで、いつだって自分の課題に向き合うことになってきました。

過酷な子ども時代を過ごしてきた援助ホームの若者たち。

私たちにリアルな社会を教え続けています。

3本柱から仕事が生み出された



若者がいることでできた隙間的な仕事たち

コミュニティホーム大川、強度行動障がいの方の支援、自立援助ホームでは難しい、対象外の若者たちの地域生活支援、宿直や土日、夜間帯の見守り業務、柔軟、緊急の預り、相談支援事業(電話、SNS特に深夜帯)、SNSやインターネットを活用した事業、単発の請負仕事、研修講師、相談事業のモニターなど

自殺防止事業（生きることへの支援）

Twitterパトロール事業からスタートして、2019年から実施している「**ネットの居場所ポータルサイト 死にトリ**」は若者たちの活躍の機会になっています。このサイトの看板事業「**経験談**」ぜひ、読んでみてください。

死にトリ

つらチェック 経験談 トリコミュ こえサーチ のびアート アプリ

SNS

ネットの居場所ポータルサイト ～ 「死にたい」のトリセツ～について

私たちは様々なつらさや寂しさ、悩みを抱えながら生きています。

家族、学校、会社、人間関係、恋愛、生活、メンタル、お金など不安なことはたくさんあり、時には「死にたい」「消えたい」「生きていても仕方がない」と生きることを投げ出したいと思うこともあります。（ずっとそう思っている人もいることでしょう）

一人ひとりの悩みやつらさは個人的な問題にとどめてしまうと人を苦しめるマイナスな存在になってしまいますが、そのつらさの背景を探っていったり、悩みの本質を考えたりすることで、今の社会の課題を明らかにし、今後のとても貴重で価値あるものになります。

このサイトは、「死にたい」という気持ちや「生きていても仕方がない」という思いを今私たちが生きる社会への警鐘であると捉え、同じような気持ちを持つ人たちが出会い、つながり、支え合えるようなコミュニティやネットワークを創っていくことを目的に「ネットの居場所」としてつくりました。

「ネットの居場所」死にトリは今の時代でまっとうに悩める人たちのためのささやかな社会参加の場です。

まずは、自分の「死にたい」分析から始めてみませんか？

全国規模でニーズに出会い続けたら…

若者たちはタレントだった！

ニーズの変化

2017年以降も
札幌の定時制高校に継
続で訪問

2018年～
コミュニティホー
ム大川

全国の何でも電話相談
全国のSNS相談のつながり

2019年～
ネットの居場所ポータルサイト
死にトリ

定時制高校：自立に行き詰る困窮家庭
の子、発達凸凹で未学習、誤学習の子

全国の仲間やSNS、ネットの居場所：
様々な暴力抑圧の渦中においてパワ
ーレスになっている若者たち



若者自立プロセス資源化モデル事業
(2020～2023年)
今年度は子ども若者に物づくり体験
を通じて、生活スキルや社会体験、
社会性を身につけ、社会とのつなが
りをつくる事業をスタート

若者たちと一緒に資源開発をする
スタイルに変化していく

いろいろな歴史があり、それぞれの物語がある若者たちに出会い、関わり、共に活動していくと…

自分の中の「当たり前」が揺らぎ、壊されて、新しくなっていく経験

例えば…

- ①家で母親が言う「今日、何食べたい？」とヘルパーとして入った家庭で言われた「今日、何食べたい？」の意味の違いは？
- ②出会い系で男性とつながり続け、支援があっても不安定から抜けられないのは？近くの支援者より、遠くの男性を選び続けたその先は？
- ③理解のある職場で自分の役割もあり、収入も生活も安定しているのに、毎月〇の付く日にはとりつかれるようにパチンコ屋にいつてしまう/部屋がいつまでゴミでいっぱいなのは？
- ④いきなり弁当や飲み物を頭からかぶってしまったたり、カッターで腕を切ってしまうのは？

生きづらさを抱え、支援を必要としている人たち

の中で起こっていることは

見えない、気づかないことが多い



ないもの(別世界のこと)として

考えられている という実態

**「家族個々の歴史」を聞き取り、そだちの物語
にふれることで「何が起きているのか」が少し
ずつわかってくる**

**対人援助職の前提として必須
見えない「当たり前」を可視化する**

様々な当たり前を比較すると…

属性情報	優位性あり	優位性なしまたは不利益あり
人種・民族	(米国内の場合)白人 (日本国内の場合)日本人	(米国内の場合)非白人 (日本国内の場合)外国人、在日コリアン、アイヌなど
出生時に割り当てられた性別	男性	女性
性的指向	ヘテロセクシュアル(異性愛者)	レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、アセクシャルなど
性自認	シスジェンダー(性別違和のない人)	トランスジェンダー、エックスジェンダーなど(性別違和のある人)
学歴	高学歴 (大卒、有名校出身など)	低学歴(中卒、高校中退、定時制や通信制高校卒、不登校など)
経済的階級	高所得 正規雇用	低所得 非正規雇用
身体・精神の機能	健常者	障がい者
家族構成	両親とその子ども	ひとり親世帯、独身、子どもがいない、里親・里子など
容姿	…	…

見えない当たり前前は「マジョリティの特権」とも言い換えられます

- ここでいう特権は、「マジョリティ性を多く持つ社会集団に属することで知らないうちに得てしまっている優位性」のことです
- 制度的差別、文化的差別の構造により起こります
- 「本人の努力不足や頑張り」の問題ではありません
- 特権は、持っている側には意識しづらく、当たり前になると特権を持たない人の努力の問題にすり替えられがちです

つまり、歴史や物語を受け止め、理解を妨げる壁とも言えます

23

見えない当たり前に気づくためには…

- 自分の特権を自覚した上で、いかにマイノリティ性に耳を傾けられるか、実態を理解し、想像できるかが大切です
- マジョリティ側がマイノリティに弟子入りし、同盟関係をつくることがポイントです(誰でも、ある時は弟子、あるときは師匠に)
- 教育の在り方が重要になっていきます

さて、何点だったのでしょうか？

これらの項目は

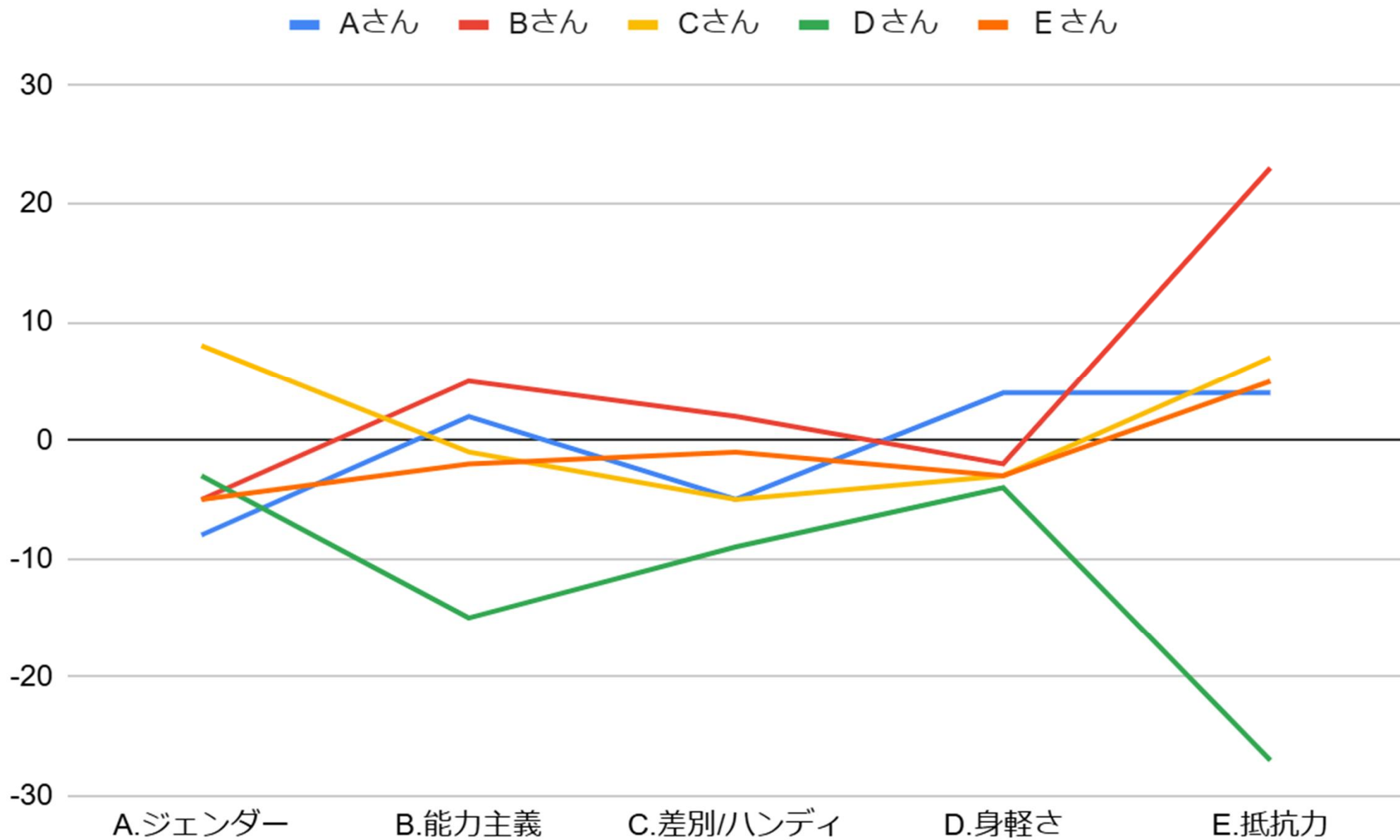


知らないうちに決まってしまう当たり前
本人の意思や努力で変えることが難しい社会構造上
の課題となっていることを整理したものです

各項目の要素

これがすべてではありません
代表的なものをまとめてみました
歴史、文化、地域などによって異なります

分類	
A	ジェンダーやセクシュアリティ、家族規範に関する 当たり前
B	能力主義を前提にした当たり前
C	差別/ハンディキャップに関する当たり前
D	身体的・社会的自由(身軽さ)に関する当たり前
E	身体的・心理的・社会的資源(レジリエンス)に関する 当たり前



当事者の理解は 自分のマジョリティ性の覚知から

誰もが差別をする可能性、される可能性がある
それに目をつぶり避けることや、自己防衛と正当化すること
で差別は生まれ、温存されていく社会構造があります
その構造を変えていく必要があります
それを変えていくためにはまず、自分たちの見えない当たり
前(特権性)に気づくこと、さまざまな社会問題について目の
前の人たちから正しく学ぶことが大事
→リアルを感じること、知ること、弟子入りする機会が大切
それはすなわち「家族個々の歴史」を聞き取り、そだちの
物語にふれること

ハンナ・アーレントの言葉

「世界最大の悪は、ごく平凡な人間が行う悪です。そんな人には動機もなく、信念も邪心も悪魔的な意図もない。人間であることを拒絶した者なのです。そして、この現象を、私は”悪の凡庸さ”と名付けました。」

「考えるのを止めたら、人間じゃなくなる」

感じ続け、考え続ける機会を持つこと＝わからなさに向き合い続けること

一人ひとりの家族の歴史を聞き取り、そだちの物語にふれ続けましょう